

ジェイムズ・デプリースト 没後10年

2005～08年に都響の常任指揮者を務めたジェイムズ・デプリースト（1936～2013）。

都響は、没後10年を記念した2023年10月14日C定期で、デプリースト&都響が最後の共演（2009年12月）で採り上げたシューマンのヴァイオリン協奏曲を演奏します（ソリストは14年前と同じくイザベル・ファウスト）。それを機に、ここでは退任号であった『月刊都響』2008年3月号の記事「デプリースト&都響の3年間」と「デプリースト 活躍の軌跡」を、一部を改訂して再掲載。マエストロが残した功績を振り返ります。



ジェイムズ・デプリースト ©K.Miura

デプリースト&都響の3年間

文／松本 學

2005年4月に都響の常任指揮者に就任し、2008年3月にその任期を終えるジェイムズ・デプリースト。彼がその在任中に行った、30回以上におよぶ演奏会（都響主催公演／特別なものは除く）を振り返ってみようというのが、この稿の趣旨である。紙幅の都合もありその全公演を時系列的に言及することは不可能ゆえに、筆者の印象に残ったものに限られる点はご容赦いただきたい。

透明感のあるサウンド

デプリーストの演奏を振り返るには、まず就任直前に行われたインタビューを思い返す必要がある。『月刊都響』2005年2月号に掲載された渡辺和氏によるそれでは、オーケストラに対するデプリーストの一般的なヴィジョンが明確に語られている。結論めいたことを言ってしまうと、ここに、彼が在任期間中に成し遂げた、あるいは成し遂げようとした特徴のほとんどが語られている、と言ってもあながち誤りではないと思う。

すなわち、都響オリジナルの「サウンド」「プログラミング」である。自身が親しんだフィラデルフィア管弦楽団の豊かなサウンドをひとつの理想として、作品への柔軟性を保ちつつ、温かく豊かに響く音、押し付けずに力強い音を志向すること。また、過去のプログラミングを見てハイドンが少ないことを指摘、「基本となるのはハイドン、モーツァルト、ベートーヴェン」とし、さらにマーラーなど都響の伝統をさらに発展させつつ、自身の得意な作品も盛り込むというバランスのよさを謳っていた。これらの発言を忘れてはいけないと思う。

さて、その実演であるが、まずは何と言っても、「就任披露公演」と銘打ち、マー

ラーの交響曲第2番《復活》を採り上げた2005年5月19・20日の第608回A定期・第609回B定期である。筆者は東京文化会館での公演を聴いたが、壮大なフィナーレを期待する向きが多いこの作品の終曲で、デプリーストがオーケストラを絶叫させることなく、むしろ抑えめの演奏を通したことが強く印象に残っている。音量的カタルシスを期待した方にはおそらくやや肩透かしを覚えさせることとなったろうと思われるが、音の透明度を減ずることをよしとしない彼なりのアプローチが、既にこの時点ではっきりとプレゼンテーションされていたのは高く評価しておきたい。

これに続く「芸術家の肖像」（5月25日）とプロムナード（5月29日）では、自身の故郷アメリカをテーマに、バーバーのみで構成されたプログラムと、コーブランドとドヴォルザーク（もちろん《新世界より》）の2公演が行われた。この3回でマーラー・オーケストラとしての都響のアイデンティティと、自身のそれを共に尊重し、紹介したわけである。2005年は、7月29日の都響創立40周年と第2次世界大戦終結60周年を記念したヴェルディ《レクイエム》も指揮。

オーケストラ・メンバーによるソリスト

彼のコンサート・ビルディングでは、オーケストラ・メンバーへの信頼と期待を前面に出し、彼らをソリストに積極的に起用したことも特筆すべきだ。矢部達哉、鈴木学をはじめ、サトーミチヨや双紙正哉、広田智之などが登場している。

その中で最も典型的だったのは2005年11月14・15日の第616回A定期・第617回B定期だ。当日配布されたパンフレットには「謹告」と記された1枚の紙が挿まれており、「都響のメンバーとソリストたちに誇りを持って委ねたい」として、モーツァルト《協奏交響曲》を何と指揮者なしで演奏させていたのである。さらには2006年12月20日の第637回B定期。この時にはシュニトケ《ハイドン風モーツァルト》が演奏されたが、ここではデプリーストの強い勧めで矢部、双紙による「解題」が特別配布され、聴衆の作品への関心をおおいに高めてくれていた。

プロコフィエフとショスタコーヴィチ

デプリーストの任期の中で重要な作曲家といえば、やはりプロコフィエフとショスタコーヴィチだろう。前者では2年にわたって行われた、20世紀前半のソ連を代表する映画監督エイゼンシュテイン関連公演で披露された《イワン雷帝》（2006年9月12・14日／第630回B定期・第631回A定期）と《アレクサンドル・ネフスキー》（2007年11月28・29日／第652回A定期・第653回B定期）である。特に、《イワン雷帝》の名演はその後語りぐさとなった。



シヨスタコーヴィチでは2006年9月18日の「作曲家の肖像」での室内交響曲、チェロ協奏曲第1番、交響曲第5番を頂点に、2008年3月17日／第658回A定期の交響曲第12番《1917年》まで何度か採り上げている。この作曲家らしいシニカルさが前面に出された演奏とは言い難いものの、均整の取れた古典的な造形はやはり特別な才能を感じさせる。

多彩なプログラミング

また、同時に彼のレパートリーの広さ、およびヴァリエティ豊かなプログラミングにも注目しておきたい。演奏歴を見ていただければ一目瞭然だが、ベートーヴェンやチャイコフスキーといった、いわゆる定番的な作品から得意のロシアものはしっかりと押さえつつ、彼の演奏としては比較的珍しいものも織り込まれている。

たとえばブルックナー。2006年4月12・17日の第624回B定期・第625回A定期で交響曲第2番と第9番が採り上げられていた。響きと流れに卓抜な才能を発揮する彼らしい演奏であり、彼の他のブルックナー作品を聴けなかったことが惜しまれる。また、2007年11月23日にはワーグナー（「作曲家の肖像」）もあった。ベルクの《管弦楽のための3つの小品》（2006年4月17日／第625回A定期）も然り。スクリャービンの《夢想》（2007年11月28・29日／第652回A定期・第653回B定期）などレアなものも忘れ難いし、季節ものながらヘンデルの《メサイア》（2006年12月15日／第636回A定期）まで演奏している。2007年の、かたやシューマンの交響曲第2番とブラームスのピアノ協奏曲第2番（4月17日／第642回A定期）、かたやシューベルトとマーラーの交響曲第5番（4月27日／第643回B定期）と、ナンバリングを揃えた遊びは微笑ましい記憶でもある。3年という短い期間にもかかわらず、かように守備範囲の広さを発揮したことは今後ゆつくりと反芻されるべきだろう。

これらのレパートリーやプログラミングの多彩さが最もわかりやすいのが、ラストとなるこの2008年3月公演。ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンという基本形を入れ、さらにオーケストレーションや作曲のテクニックをきわめたラヴェル、R.シュトラウス、レスピーギ、ヒンデミットらの近代作曲家、そして得意なロシア作品を、わずか2週間ですべて指揮するのである。

アウトリーチ活動

最後に……感情を剥き出しにするいわゆる直情型・激情型でなく、響きや構成に重きを置いたデブリーストのアプローチが、ダイナミックなドラマを好む音楽ファンに戸惑いを与えたことも指摘しておこう。彼の音楽志向とは別に、都響に初登場した頃とは異なり、車椅子での演奏となった任期後半では、身体表現にある種の枷が存在したと考えることも可能だ。しかし、やはりそれは時間と共に慣れて行くことだろうし、新たな技術を生み出すきっかけとなるものでもある。何よりもその音楽的イメージを理解するには如何せん時間が短かったことは確かだ。

しかし、彼から得られた響きや色彩、オーケストラ・バランスといった点での充実と、そのさらなる深化は今後の都響にとってとても大切な課題だと思う。シェフが交替するということは、これまでがガラッと一変することを意味するものではないし、そうであってはいけない。デブリーストが与え、残してくれたものを活かし、より豊潤な響きと色彩、クオリティの高いアンサンブル能力を得て、これまで以上に特別なオーケストラに発展してほしいと思うのは一ファンの勝手な希望だけであるまい。

もう一言、しかし絶対に触れておかなければならないことがある。それは彼がアウトリーチ活動にも積極的にかかわったことだ。クラシック音楽や都響という団体をより広く知らしめ、そして愛されるために彼が果たした功績は、コンサートのみに留まるものではなかった。

ありがとう、Mr. デブリースト。またお会いしましょう。

ジェイムズ・デブリースト James DePREIST

1936年11月21日、フィラデルフィア生まれ。フィラデルフィア音楽院でパーシケッティに作曲を学び、ペンシルヴェニア大学で科学と芸術の学位を得た。1964年ミトロプロロス国際指揮者コンクールで優勝。ケベック響音楽監督、オレゴン響音楽監督、ジュリアード音楽院指揮科およびオーケストラ学科監督などを歴任した。フィラデルフィア管、シカゴ響、ニューヨーク・フィルなどアメリカの主要オーケストラを定期的に指揮。都響へは1994年11月に初客演、2005年4月～2008年3月に常任指揮者を務めた。2005年11月、アメリカの文化勲章にあたる National Medal of Arts を受賞。音楽を通じた教育活動や地域活動にも積極的に取り組んだ。2013年2月8日、アリゾナ州の自宅で死去。



デプリースト 活躍の軌跡

2005～08年の常任指揮者在任中、意欲的な演奏活動と積極的なアウトリーチ活動に力を注いだジェイムズ・デプリースト。数々の名演、そして意義深い活動の数々は、多くの人々の胸に温かい感動を残しました。ここでは在任の3年間を中心にマエストロの演奏、そして様々な活躍の軌跡をたどります。

2004年

11月4日 都響マエストロ・ビジット第1弾

指揮者が自ら東京都内の小中高校を訪問して特別授業を行い、子どもたちとの対話を通して、クラシック音楽、オーケストラへの理解と興味を高め、人間としての成長のありかたを伝える新たなアウトリーチ活動「都響マエストロ・ビジット」が、就任半年前にスタート。第1弾では新宿区立牛込仲之小学校を訪れました。



2005年

【常任指揮者就任披露公演】

マーラー：交響曲第2番 ハ短調《復活》

5月19日 第608回A定期 東京文化会館

5月20日 第609回B定期 サントリーホール

ソプラノ／澤畑恵美

メゾソプラノ／竹本節子

合唱／晋友会合唱団

5月22日 「ジョイントコンサート」説明会

「都響+デプリーストとティーンズのためのジョイントコンサート」（2005年8月1日）の説明会にマエストロが自ら登場。出演するティーンズにエールを送りました。

5月25日 「作曲家の肖像」 Vol.56 〈バーバー〉 東京芸術劇場

オーケストラのためのエッセイ第2番 op.17

弦楽のためのアダージョ op.11

ヴァイオリン協奏曲 op.14

ヴァイオリン／渡辺玲子

ノックスヴィル、1915年の夏 op.24

ソプラノ／野田ヒロ子

交響曲第1番 ホ短調 op.9

5月26日 都響マエストロ・ビジット第2弾

都響メンバー（弦楽四重奏）とともに、杉並区立阿佐ヶ谷中学校を訪問しました。



5月29日 プロムナードコンサート No.313 サントリーホール

コーブランド：組曲《ペリー・ザ・キッド》

コーブランド：クラリネット協奏曲

ドヴォルザーク：交響曲第9番 ホ短調 op.95 《新世界より》

クラリネット／サトーミチヨ

7月12日 『徹子の部屋』に出演

人気番組『徹子の部屋』（テレビ朝日系列）に出演しました。黒柳徹子さんと約30分にわたり、楽しい対談の時間を過ごしました。

7月29日 都響創立40周年特別演奏会 ヴェルディ：レクイエム

サントリーホール

ソプラノ／中村智子
メゾソプラノ／竹本節子
テノール／市原多朗
バリトン／福島明也
合唱／二期会合唱団

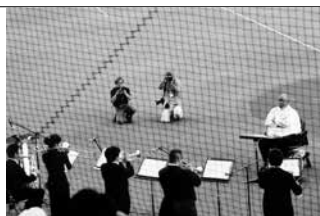
8月1日 都響+デプリーストと ティーンズのためのジョイントコンサート 東京文化会館

司会／頼近美津子
外山雄三：管弦楽のためのラプソディー
シベリウス：交響詩《フィンランディア》 op.26
ブラームス：大学祝典序曲 op.80
グリーグ：組曲《ホルベアの時代より》 op.40
リスト：交響詩《前奏曲（レ・プレリュード）》 S.97



8月2日 スタジアムがオーケストラになる日ー。 楽器を持ってマリスタに集合！

デプリーストの指揮で、都響金管アンサンブル、ご来場のお客様が《Take Me Out to the Ball Game》を演奏しました（千葉マリンスタジアム／現ZOZOマリンスタジアム）。



9月 『のだめカンタービレ』に実名で登場

講談社コミックス『のだめカンタービレ』第13巻（©二ノ宮知子／講談社）に登場。『月刊都響』2005年1月号で二ノ宮知子氏と対談したことがきっかけとなり、デプリーストがコミックのストーリーに主人公の上司役として実名で登場しました。その後も、TVドラマ・TVアニメ化に際し、都響が音楽面でバックアップするなど、友好な関係を展開。“のだめブーム”の一翼を担いました。



11月10日 National Medal of Arts 受章

音楽界での長年の功績に対し、National Medal of Arts（アメリカ合衆国の文化勲章）を受章。ホワイトハウス大統領執務室で行われた授与式にて、ブッシュ大統領とローラ夫人からメダルが贈られました。

11月14日 第616回A定期
東京文化会館

武満 徹：弦楽のためのレクイエム
モーツァルト：ヴァイオリンとヴィオラのための協奏交響曲
変ホ長調 K.364 (320d)
シヨスタコーヴィチ：交響曲第1番 ヘ短調 op.10

11月15日 第617回B定期
サントリーホール

ヴァイオリン／矢部達哉
ヴィオラ／鈴木 学

11月19日 プロムナードコンサート
No.315 サントリーホール

モーツァルト：交響曲第39番 変ホ長調 K.543
ベートーヴェン：交響曲第3番 変ホ長調 op.55 《英雄》

11月22日 都響マエストロ・ビジット第3弾

都響メンバー（打楽器アンサンブル）とともに台東区立柏葉
中学校を訪問。



11月23日 都響・調布シリーズ
No.7
調布市グリーンホール

ピアノ／佐藤美香

外山雄三：交響組曲《東京》より「こもりうた」
ショパン：ピアノ協奏曲第1番 ホ短調 op.11
ドヴォルザーク：交響曲第9番 ホ短調 op.95 《新世界より》

11月27日 「作曲家の肖像」Vol.58
〈ラフマニノフ〉 東京芸術劇場

ピアノ／横山幸雄

ピアノ協奏曲第2番 ハ短調 op.18
交響曲第2番 ホ短調 op.27

2006年

4月12日 第624回B定期
サントリーホール

モーツァルト：交響曲第29番 イ長調 K.201 (186a)
ブルックナー：交響曲第2番 ハ短調 WAB102 (ハース版)

4月17日 第625回A定期
東京文化会館

ベルク：管弦楽のための3つの作品 op.6
ブルックナー：交響曲第9番 ニ短調 WAB109

4月18日 都響マエストロ・ビジット第4弾

都響メンバー（打楽器アンサンブル）とともに小平市立小平第三中学校を訪問。

4月23日 プロムナードコンサート
No.318
サントリーホール

ピアノ／アレクサンダー・ギンティン

モーツァルト：歌劇『魔笛』序曲 K.620
ショパン：ピアノ協奏曲第1番 ホ短調 op.11
ブラームス：交響曲第1番 ハ短調 op.68

9月12日 第630回B定期
サントリーホール

9月14日 第631回A定期
東京文化会館

語り／平野忠彦
アルト／クリスティーン・メドウズ
合唱／二期会合唱団

プロコフィエフ：交響組曲《キージェ中尉》 op.60
プロコフィエフ(スタセヴィチ編曲)：オラトリオ《イワン雷帝》
op.116



©竹原伸治(9月12日)

9月 レコーディング

『のだめカンタービレ』（二ノ宮知子／講談社）TVドラマ＆TVアニメ音源用レコーディング。

9月15日 都響マエストロ・ビジット第5弾

都響メンバー（弦楽四重奏）とともに豊島区立千登世橋中学校を訪問。

9月18日 「作曲家の肖像」 Vol.61 室内交響曲 ハ短調 op.110a
〈ショスタコーヴィチ〉 東京芸術劇場 チェロ協奏曲第1番 変ホ長調 op.107
チェロ／趙 静 交響曲第5番 ニ短調 op.47

12月15日 第636回A定期
東京文化会館

ソプラノ／天羽明恵
アルト／山下牧子
テノール／望月哲也
バリトン／三原剛
合唱／晋友会合唱団

ヘンデル：オラトリオ《メサイア》 HWV56

12月16日 朝日カルチャーセンター公開講座

「私にとってのショスタコーヴィチ」というタイトルで、12月20日の交響曲第8番の演奏を前に、ショスタコーヴィチ作品や作曲家への思い入れ、指揮するうえでの取り組み方などを、様々なエピソードを交えながら、音楽ライター・諏訪節生氏とともに話しました。



12月20日 第637回B定期
サントリーホール

ヴァイオリン／矢部達哉、双紙正哉

シュニトケ：ハイドン風モーツァルト
ショスタコーヴィチ：交響曲第8番 ハ短調 op.65

都響スペシャル「第九」
12月24・25・26日
東京芸術劇場／東京文化会館／
サントリーホール

ソプラノ／澤畑恵美
メゾソプラノ／竹本節子
テノール／福井敬
バリトン／福島明也
合唱／二期会合唱団

序曲《コリオラン》 op.62
交響曲第9番 ニ短調 op.125 《合唱付》

2007年

都響×のだめカンタービレ シンフォニック・コンサート

4月12日 都響スペシャル
東京芸術劇場

ピアノ／若林顕

司会／朝岡 聡

ベルリオーズ：序曲《ローマの謝肉祭》 op.9
ラフマニノフ：ピアノ協奏曲第2番 ハ短調 op.18
ブラームス：交響曲第1番 ハ短調 op.68

4月17日 第642回A定期
東京文化会館

ピアノ／スティーヴン・オズボーン

メンデルスゾーン：序曲《フィンガルの洞窟》 op.26
シューマン：交響曲第2番 ハ長調 op.61
ブラームス：ピアノ協奏曲第2番 変ロ長調 op.83

4月18日 都響マエストロ・ビジット第6弾

都響メンバー（弦楽四重奏）とともに都立駒場高等学校
（目黒区）を訪問。



4月27日 第643回B定期
東京オペラシティ

シューベルト：交響曲第5番 変ロ長調 D485
マーラー：交響曲第5番 嬰ハ短調

都響×のだめカンタービレ シンフォニック・コンサート2nd STAGE

11月11日 都響スペシャル
東京芸術劇場

オーボエ／広田智之

司会／朝岡 聡

モーツァルト：歌劇『魔笛』序曲 K.620
モーツァルト：オーボエ協奏曲 ハ長調 K.314 (285d)
シベリウス：交響曲第2番 ニ長調 op.43

11月17日 オーケストラ体験ワークショップ&コンサート

「平成19年度多摩・島しょ子ども体験塾市町村助成事業」の一環として行われた「オーケストラ体験
ワークショップ&コンサート」（羽村市生涯学習センターゆとろぎ）に登場。グネプロの公開やトーク
ショーを行いました。

11月18日 プロムナードコンサート
No.325 サントリーホール

チェロ／トルレイフ・テデーニ

チャイコフスキー：幻想序曲《ロメオとジュリエット》
チャイコフスキー：ロココ風の主題による変奏曲 イ長調 op.33
ラフマニノフ：交響的舞曲 op.45

11月23日 「作曲家の肖像」Vol.66
〈ワーグナー〉 東京芸術劇場

ソプラノ／佐々木典子

楽劇『トリスタンとイゾルデ』より「前奏曲と愛の死」
女声のための5つの詩《ヴェーゼンドンク歌曲集》
楽劇『神々の黄昏』より「夜明けとジークフリートのラインの旅」
「ジークフリートの死と葬送音楽」
「ブリュンヒルデの自己犠牲と終曲」

11月28日 第652回A定期
東京文化会館

11月29日 第653回B定期
サントリーホール

メゾソプラノ／竹本節子
合唱／二期会合唱団

スクリャーピン：夢想 op.24
モーツァルト：交響曲第38番 ニ長調 K.504 《プラハ》
プロコフィエフ：カンタータ《アレクサンドル・ネフスキー》
op.78

2008年

3月17日 第658回A定期
東京文化会館

ピアノ／児玉桃

ハイドン：交響曲第44番 ホ短調 Hob.I:44 《悲しみ》
モーツァルト：ピアノ協奏曲第23番 イ長調 K.488
ショスタコーヴィチ：交響曲第12番 ニ短調 op.112 《1917年》

3月22日 「作曲家の肖像」 Vol.67
〈レスピーギ〉 東京芸術劇場

リュートのための古風な舞曲とアリア 第3組曲
交響詩《ローマの祭》
交響詩《ローマの噴水》
交響詩《ローマの松》

3月26日 第659回B定期
サントリーホール

ヴァイオリン／矢部達哉

ペルト：弦楽器と打楽器のための『フラトレス』（1991年版）
モーツァルト：ヴァイオリン協奏曲第5番 イ長調 K.219
《トルコ風》
R.シュトラウス：交響詩《ドン・ファン》 op.20
ヒンデミット：交響曲《画家マティス》

3月30日 プロムナードコンサート
No.327
サントリーホール

ハイドン：交響曲第88番 ト長調 Hob.I:88
ベートーヴェン：交響曲第8番 ヘ長調 op.93
ラヴェル：組曲《マ・メル・ロワ》
ラヴェル：亡き王女のためのパヴァーヌ
ラヴェル：ラ・ヴァルス

2009年

12月11日 都響スペシャル
「横浜公演」

横浜みなとみらいホール

女声合唱／栗友会合唱団

モーツァルト：交響曲第41番 ハ長調 K.551 《ジュピター》
ホルスト：組曲《惑星》 op.32

12月16日 第690回A定期
東京文化会館

12月18日 第691回B定期
サントリーホール

ヴァイオリン／イザベル・ファウスト

シューマン：ヴァイオリン協奏曲 ニ短調
ブルックナー：交響曲第7番 ホ長調 WAB107 (ノヴァーク版)